

検診受診アクション促進AI

国のがん対策では、がん検診受診率 60%以上が目標として掲げられていますが、現場では紙通知や一斉配信だけでは十分に行動を変えられていません。受診しない理由は対象者ごとに異なるため、個別の健康ニーズに合わせた訴求が必要です。AIがアンケートや行動変容ステージに応じてメッセージを最適化することで、受診率向上や再勧奨の効率化を支援します。

想定顧客

自治体保健部門、健保組合、保険会社、病院・健診センター

顧客課題の声

- ・「案内は送っているのに、対象者が受診に動かない」
- ・「年齢や生活状況が違うのに、一律文面しか打てていない」
- ・「受診率向上がKPIだが、紙通知と一斉配信では限界がある」
- ・「未受診者への再勧奨を、もっと効率化したい」

従来技術課題（LLMとの比較）

- ・ 励ましの文章は作れても、**習慣定着のための行動設計（理論的根拠）**が弱い
- ・ 学習者ごとの特性に応じた介入の**タイミングやメッセージ内容の最適化**が難しい
- ・ 典型的・画一的な介入設計となり、学習状況や動作などのフィードバックに応じた**継続的な改善**は難しい

プランニング結果

長期的な行動の定着を目的として、**無理なく続けられる仕組み**を提供することで、自律的な習慣形成を支援します。

理論的根拠① 行動原理 (Mechanism of Actions)



08
TDF Intentions

意図 (No.8)

- 行動を実行するという意思決定、または特定の方法で行動するという決意
- 例「今日から毎日、通勤時に海外ニュース記事を見ると決めた。」



09
TDF Goals

目標 (No.9)

- 個人が達成したいと望む成果や最終的な心理状態
- 例「1年以内にTOEIC700点以上を目標にしている。」



14
TDF Behavioral Regulation

行動の制御 (No.14)

- 行動を管理または変更するための行動・認知・感情に関するスキル
- 例「途中で諦めないように、予め学習ノルマを手帳に記載しておく。」



24
ECT Behavioral Cueing

きっかけ (No.24)

- 外部環境、刺激等から特定の行動が引き起こされるプロセス
- 例「チャイムが鳴ると勉強開始するようにしている。」

アプリケーション設計

アプリ画像

- 学習状況に応じた**個別メッセージ**を提示
- 小さな目標設定と達成確認を繰り返し、**自己効力感**を高める
- 行動の**きっかけ**を設計し、習慣化を促進
- 継続状況に応じて、メッセージの内容や通知タイミングを見直し

理論的根拠② 介入技法 (Behavior Change Techniques)

目標(No.1)、モニタリング(No.2)、通知(No.7)、習慣形成(No.8-3)、自信(No.15)など